鰭

ひれ

品川鈴子句集

suzuko shinagawa

瀬戸内海のほとりで育った私には、魚は身近な友達でした。村には漁の舟から魚を直に仕入れてリヤカーで行商し、女手ひとつで生計を支えている「魚売りさん」が数人いました。その陽気で前向きな姿に日々接しているうちに、魚がいっそう好きになりましたので、句集名を魚に因んで「鰭」と致しました。

品川鈴子「あとがき」より

遍路へと発心(ほっしん)の髪切り詰めて

形見なる診療ズボン遍路装

真珠橋渡り遍路の足ならし

pdf 制作：俳誌の salon

長閑なり死に装束に着替へては

遍路らに紛れて名前など要らず

遍路発つ韋駄天歩きなだめつつ

pdf 制作：俳誌の salon

句行脚に長命杉の花こぼる

助手席のリュックにかぶせ遍路笠

花しぐれ黙(もだ)しがちなる詩の族(やから)

pdf 制作：俳誌の salon

冬濤はバスコダガマの長篇詩

前世は魔女かもしれぬ黒マント

衛兵は白き息洩る天公図（エストレラ）

pdf 制作：俳誌の salon

春潮の満ちて水牢城の底

リスボンの塩田千鳥遊ばせて

長旅の掌に焼栗をまろばせる

pdf 制作：俳誌の salon

虹二重瀬戸にこぼれし島いくつ

流れ星打出の小槌もう要らず

渦潮の巻きこみ損ねたる小島

pdf 制作：俳誌の salon

己が尻踵で蹴りて阿波踊

阿波踊り足を倣(なら)へば手従ふ

踊笠老いてはいよよ目深にす

pdf 制作：俳誌の salon

鱗雲石となるまで詩(うた)詠まむ

勝烏紅葉の小枝銜へきし

紅葉もて八つ巻きにせし名護屋城

pdf 制作：俳誌の salon

水澄みて魚越えられぬ堰いくつ

転生は魚もよからむ紅葉渓

黄落のしきりに魚ら鰭話

pdf 制作：俳誌の salon

秋晴れの魚は影つれ倍となる

鰭止めて魚もすなり日向ぼこ

核家族などは知らずに紅葉鱒

pdf 制作：俳誌の salon

ヨット瞰る領巾(ひれ)を振るべき君亡くて

曼珠沙華遠見の畦が領巾めきぬ

浦島草元(げん)の碇は一枚岩

pdf 制作：俳誌の salon

イスラエル柑は酸からず聖き夜

割り切れぬ鈴を躱(かわ)して聖菓切る

炬燵のけワープロ据ゑむ世紀替へ

pdf 制作：俳誌の salon

年忘れ病忘れの仏蘭西食

スチロール箱と浮寝し淀の鴨

極月の川底ゑぐる鉄の爪

pdf 制作：俳誌の salon

打ち首のごと筍を掘り並べ

風薫る七部集より稿起し

碧き目の僧へ蝙蝠「ボナセラ」と

pdf 制作：俳誌の salon

単線のここに尽きたる花明かり

ナザレより瀬戸内までの春の潮

麺打ちてとことん無口葱坊主

pdf 制作：俳誌の salon

渦潮のちぎれ藻汝(なれ)もよるべなく

初冠雪瞰えて空路の定まれり

機の窓に初冠雪のひと抓み

pdf 制作：俳誌の salon

九頭竜も天へ昇らむ世紀変

pdf 制作：俳誌の salon

pdf 制作：俳誌の salon

句集　鰭

発　行　平成十八年九月十五日
著作者　品川鈴子
発行者　井上伸一郎
発行所　株式会社　角川書店
〒102-8177 東京都千代田区富士見二―十三―三
電　話　（〇三）三八一七―八五三六（編集）
編集制作　株式会社　角川学芸出版
印刷所　三協美術印刷　株式会社
製本所　株式会社　鈴木製本所

©Suzuko Shinagawa 2006　Printed in Japan
ISBN4-04-621510-0 C0092

pdf 制作：俳誌の salon